

# 市民連合

## 山梨 ぐんないニュース

### 第 31 号

2026 年 3 月発行

発行 市民連合 ぐんない

共同代表 知見邦彦

総選挙、高市・自民圧勝で「改憲が進み、戦争への不安」ひろがる

「国論二分する政策」で国民は高市・自民党を支持しない

突然の国会解散によって真冬の総選挙となり、市民連合ぐんないは 1/18 に緊急会議を開催し、市民連合ぐんないの政策ピラまき、選挙カー宣伝、資金カンパなどの方針を決め取組みました。上野原駅頭と住宅地、コモア、大月市内団地、都留文大付近などに 2 千枚を超えるピラを入れました。宣伝カーによる宣伝は富士吉田、河口湖、山中湖、道志村などで実施しました。多くの会員の皆様や市民連合やまなしからカンパをいただきました。ありがとうございました。

### 憲法があぶない

高市首相は、選挙期間中、安全保障など、「国論を二分する政策を逃げずに挑戦」と言いながら、中身は説明せず、争点を隠したまま「白紙委任」を得ることを狙いました。終盤～選挙が終わると憲法改定も対象であること、「各会派の協力を得て改正案を発議する」、「早く憲法改正の賛否を問う国民投票が行われるよう環境をつくりたい」とまで踏み込みました。自民党は単独で、改憲発議ができる 3



道志村 杉山さん

分の 2 の議席を衆議院で得たのです。

### 自民党は憲法をどう変えるか

自民党はこれまでの憲法審査会などで次の条文案（素案）を提示しています。

#### ① 自衛隊の明記（9 条の改正）

追加条文で自衛隊を軍隊として規定しその存在を明記、ex 「必要な自衛の措置をとることを妨げず・・・内閣総理大臣を最高の指揮監督者とする・・・自衛隊を保持する」

#### ② 緊急事態条項の新設

大規模災害、武力攻撃、感染症対応などに対応、内閣総理大臣への権限強化など。

自民党は平成 24 年に全面的な「憲法改正草案」を示しています。前文を全面的に書き換え、日本の歴史・文化、助け合

い（相互扶助）を強調する内容になっています。他に、国旗・国歌の規定、家族の尊重責任条項、憲法改正の発議要件の緩和などがあります。

維新の憲法改定案では、自衛隊の存在を憲法に明記し、集団的自衛権の行使や「国防軍」の位置づけを憲法で明示するものになっています。

### 「憲法改正発議」をさせない

総選挙直前に、立憲民主党は「安本法制は違憲」「原発再稼働反対」方針を変え、自民を支えてきた公明と新党結成に向かいました。憲法改悪反対の共産、社民、れいわブロックに対し憲法改正を是とする右のブロックが議席を増やしました。しかし、支持者が憲法の改定内容・方向を知ったうえで支持

したわけではありません。

高市首相の本性が明らかになるにつれ「発議をするな」の声が高まるでしょう。これからが本番です。



## 「女性議員の誕生を・大月市」発足

### 2/17 大月市民会館で熱気あふれる話合い

2/17、大月市民会館に、21名の女性が集まり（元男女共同参画委員6人参加、現在会員は30名）、大月市で20年間空白だった女性議員を誕生させよう

と熱気につつまれる集いが開催された。会の名称は、「女性議員の誕生を・大月市」、推進実行委員会の名称は「和の会」に決定された。

呼びかけたのは佐藤喜子さんを中心とする上映実行委員会のメンバー及び大月市男女共同参画元委員、目立ったのは、



40歳代と思われる若い世代の参加者、呼びかけを、熱い熱量をもって応えた方々で、既に様々な市民活動にかかわり、SNSなどを駆使するたのもしい方々であった。山梨日々新聞とNHKが取材にみえていた。（NHKは、pm 6:10の“かいドキ”で放映、日程は未定）

## 「逆さまの全体主義」！？「キリスト教帝国アメリカ」！？ 第2回

米トランプの大統領の“やりたい放題”の現状について 宗教者の雑感

賛同人 白戸 清

### アメリカキリスト教「福音派」の影響

アメリカは、今年の7月に建国250年を迎えるが、トランプ大統領は自分がこの記念すべき年の大統領であることを明確に意識していると思う。一期目から“MAGA”を大々的に唱えるトランプは何よりも自国が<偉大になること>を祈り、願い求め、そのために大統領に与えられたあらゆる権力を積極的に用いている。大切な正義、公平、平等、多様性、そして、国際法の秩序による世界の平和や安全を作り出す務めさえも、「力による平和」こそが完全に正しいと心から信じ込んでいる彼は、関心も責任も持ちたくないのである。さらに彼は日本の政治にまで口出しして、高市早苗総裁の自民党が選挙に勝利することを願い、彼女を「力による平和」を作り出す同じ仲間と見なし、新首相自らもそれを喜んでいることは、日本にとって聞き捨てならないことであり、怖いことである。

さて、このアメリカという歴史の若い(浅い)国の成り立ちで無視できないものが、言うまでもなく「キリスト教」でありそれは、広く言えば「ユダヤ・キリスト教的思想」とも言えよう。憲法上は「信教の自由」がある米国だが、我々が



知るように、大統領の宣誓式ではキリスト教の正典(聖典、カノン。信仰の基準となる書)である「聖書」に手を置いて宣誓する。トランプ大統領もプロテスタントのキリスト教徒であり、彼を取り巻く人々のほとんどすべてがそうであるといっていると思う(ただし、その属する教会や教派は別である)。

日本ではいつ頃からだろうか、アメリカのことを語るのに、新聞やテレビでもキリスト教の「福音派」のことが語られることが多くなっており、今ではこの両者の関係を抜きにしてはアメリカという国(その成り立ちと歴史、現状)とこの国に立つ教会のあり方を、また各時代に選ばれた大統領の思想、信条、それから生まれるモノの見方や決断などを語ることはできなくなっている。

ご存知の方もおられると思うが、福音(ふくいん)とは「喜びの知らせ、便り」という意味であり、キリスト教では「神の国の福音」とも言われる。イエス・キリストを罪からの救い主(メシア)として信じて、このイエスの到来(クリスマスの出来事)により新しい神の支配が始まり、歴史は世界の終わりと

完成に向かっていると信じて生きる信仰である。キリストの十字架をシンボルとする教会であれば、日本の教会もこの福音を信じる教会であり、その大多数が福音派だと言うこともできる。

では何がどのように違うのだろうか。

### アメリカ特有のキリスト教「福音派」

問題は、では教会、キリスト教徒の信じる「神の国」とは何か、そして信じる「福音」の内容は何か、キリスト者は福音を信じた上、この世でどう生きるのかということである。それらの問題を考えることを突き詰めることなしに、米国の教会や教会の信じる信仰を語ることはできない。

多くの方はご存知のように、そもそもキリスト教は約二千年前にユダヤ教から生まれた宗教であり、当初はその分派であった。それがやがてユダヤ教の正典を引き継いでこれを「旧約（古い契約）」と呼び、救い主 イエス・キリストの誕生後、イエスの十字架の死と復活、そして教会の誕生と、主にパウロという弟子（彼は地上に生きたイエスとは出会っていない！）の書いた手紙や世界の終末を描いた黙示録をまとめた「新約（新しい契約）」を含めて「聖書」とし、この書物を<神の言葉>と信じて教会の正典としている。だが聖書を読むと、さまざまな矛盾や疑問となる内容も多くあり、混乱した人間世界の現実が記されている。こ



の聖書をどう理解し、信じるかの違いが、この世における教会の立場の違い、信仰者の生き方の違いにもなっている。

聖書理解に関しては、（全体を読めば矛盾とも思える）聖書の一字一句が神

の言葉であると信じる「原理主義」の立場から聖書は世界の多くの文献資料と同じく、その時代時代に人の手によって書かれた文書であり、背景や内容を批評しうるものであると考える立場まで、理解の幅は実に広く、どの立場に立って聖書を読み、信じるかにより、大きな違いが生まれるのは当然なことである。

以上の歴史的なことを限られた紙面で丁寧に語ることはできないので、もし関心のある方は以下の新書をぜひお読みいただきたい。

### 加藤喜之著『福音派—終末論に引き裂かれるアメリカ社会』中央新書

その帯には、トランプと彼を支えてきて第二次政権下に設置された信仰局局長となるポーラホワイト牧師の2人が何かを指している写真と共に以下のように記されている。<宗教とナショナリズムの奔流、原理主義、人種差別、中絶・同性愛問題、イスラエル・・・><宗教右派は超大国に何をもたらしたのか>

次号でベネズエラ攻撃問題に対する日本と世界の教会がどう対応しているかを述べる予定。